



日本ワクチン学会 ニュースレター

vol.39

目 次

1. 第24回日本ワクチン学会学術集会を終えて
第24回学術集会会長 吉川 哲史……………2
2. 第25回日本ワクチン学会学術集会のご案内
第25回学術集会会長 石井 健……………3
3. 第3回アジア肺炎球菌シンポジウムのご案内
会長 大石 和徳 ……………7
4. ワクチン関連トピックス
「ワクチン開発・生産体制強化戦略」について ……………8
5. 賛助会員一覧……………10

§ 第 24 回日本ワクチン学会学術集会を終えて

第 24 回学術集會會長
藤田医科大学 医学部 小兒科
吉川 哲史

2020 年 12 月 19 日(土)・20 日(日)の 2 日間、名古屋市のウインクあいちから、第 24 回日本ワクチン学会学術集会をリモート開催させていただきました。2020 年に入って新型コロナウイルス感染のパンデミックが起こり、当初思い描いていた学会とは全く様相が異なってしまいました。今となってはリモート開催も当たり前になりましたが、学会前は果たしてどれくらいの方が参加してくださるのか見当もつかず、一方でリモート開催にかかる費用がかさむため、開催当日まで不安な毎日を過ごしておりました。幸い、ほぼ例年通りの参加数が得られ、無事開催できたことはひとえに学会員の皆様のおかげと思っております。この場をお借りして、改めてお礼を申し上げます。

学会の準備を進めていた今年の夏ごろは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の治療法も模索状態で、新規の mRNA ワクチン、ウイルスベクターワクチンによる予防に対する期待の高まりから、これほどまでワクチンに社会の注目が集まった中での学会開催はかつてなかったと思います。当初から、特別講演は私の留学時代のボスである、FDA の Dr. Krause をお願いしていましたが、丁度彼がこれらの新型コロナウイルスワクチンの審査を担当していることから、米国の最新のデータを話してもらうことができました。また、韓国ワクチン学会を代表して、Cheong 先生からは韓国におけるワクチンによる COVID-19 感染制御の状況についてご紹介いただきました。さらに、急遽特別シンポジウムとして石井 健先生、福島若葉先生のお二人に、当時大きな注目を集めていた BCG 接種の COVID-19 重症化予防効果について、それぞれ免疫学的、公衆衛生的な観点から考察していただき、これも会員の皆様、そして社会へ向けて科学的な考え方を提示するという点で非常に意義があったと考えています。

学会のテーマを「ワクチンで創る持続可能な未来の医療」としたのは、少子高齢化が進み医療費が高騰する中で、ワクチンを始めとした予防医療でいかにして医療費を削減してゆくかが、今後我が国が継続的に発展し子どもたちに明るい未来を提供するうえで極めて重要ではないかと考えたからです。特別講演では、国連で長い間グローバルヘルスに関するお仕事に従事され、丁度外務省の国際保健政策室へお戻りになられた江副 聡先生から、より高い視点から国際的な予防医療の重症性についてのお話を聞くことができ、改めて私たちワクチン学会員の果たすべき役割を認識させられました。

今学会では「Cutting edge in Vaccinology」、「Vaccine shortage」、「ワクチン免疫防御効果の向上を目指して」、「Emerging infectious disease に対するワクチン開発」の 4 つのシンポジウムを開催させていただきました。いずれもこの時点で、私たちが知っておかねばならないワクチンに関する最新の話、直面している課題について、各シンポジストの先生からお話しいただきました。参加された先生方におかれましては、それぞれのシンポジウムで非常に有意義なお話を聞くことができたのではないかと確信しています。

この原稿を書いている時点は第 5 波の真ただ中で、COVID-19 の流行はまだまだ収まる気配がありません。高い抗体価の維持のためには、mRNA ワクチンも追加接種が必要なようですが、現在開発中のワクチンをどのように承認し、追加接種を含めどのように使用していくのか、ワクチンで誘導された抗体価についても正確な感染防御レベル、重症化防止レベルがどの程度なのかなど、私もワクチンの専門家からすればまだまだ解決すべき課題が山積していることが見て取れます。今冬の石井 健先生が主催される第 25 回学術集會では、是非軽井沢で対面での熱い discussion が可能となり、多くの課題解決に向けて私たちワクチン学会が貢献していけることを祈念しております。

§ 第 25 回日本ワクチン学会学術集会のご案内

第 25 回日本ワクチン学会学術集会
東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 ワクチン科学分野
会長 石井 健

学会員の皆様、下記の通り現時点(2021年10月12日)におきまして、今年のワクチン学会学術集会を予定通り現地で開催する予定です。

もうすぐ確定したプログラムを配信できると思いますが、新型コロナウイルスのパンデミックがもたらしたワクチン開発研究の破壊的イノベーションの一端をお知らせできることを目指しております。トピックとしまして、AMED との共催で新規コロナワクチン開発研究の成果発表、新型コロナワクチンの日本での審査行政に関して厚生労働省、PMDA からの発表、現在も続く新型コロナワクチンの接種事業や疫学に関する発表、ポストコロナを見据えた新しいワクチンサイエンスの発表などを予定しています。

可能な限り安全かつ安心な学会運営を目指しておりますので現地で皆様とお会いできることを楽しみにしています。

第 25 回日本ワクチン学会学術集会

テーマ：ポストコロナ時代のワクチン開発研究の課題と展望

～ Vaccine Science beyond COVID-19 ～

会 期：2021年12月3日(金)、4日(土)、5日(日)【現地開催+ Web 開催】

会 場：軽井沢プリンスホテル ウエスト(長野県北佐久郡軽井沢町)

大会 H P：<https://jsvac25.jp/>

会 長：石井 健(東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 ワクチン科学分野)

運営事務局：第 25 回日本ワクチン学会学術集会 運営事務局

TEL：03-5651-7105 E-mail：jsvac25@mecenat-net.co.jp

<現地開催+ WEB 開催のご案内>

本会プログラムは現地開催と Web 開催(後日オンデマンド配信)を下記のように行う予定です。(今後の状況によって、Live 配信を追加予定。)

配信形態	配信プログラム(予定)	期間
現地開催	第3回アジア肺炎球菌シンポジウムジョイントシンポジウム、シンポジウム、高橋賞・高橋奨励賞受賞記念講演、若手奨励賞受賞者講演、教育セミナー、一般演題(ポスターセッション)	12月3日(金)～5日(日)
Web 開催 (オンデマンド 配信)	第3回アジア肺炎球菌シンポジウムジョイントシンポジウム、高橋賞・高橋奨励賞受賞記念講演、若手奨励賞受賞者講演、シンポジウム、一般演題*1(MP4)	2022年1月17日(月)～ 31日(月)

*1：一般演題(MP4)につきましては、会期中2021年12月3日(金)よりオンデマンド配信最終日の2022年1月31日(月)まで Web 視聴可能となっております。

○参加登録期間について

★事前（一次）参加登録期間：2021年10月6日（水）10:00～11月30日（火）15:00

★当日（二次）参加登録期間：2021年12月1日（水）10:00～2022年1月31日（月）15:00

※当日現地での参加登録を除き、参加登録はオンラインでのお申込みにて承ります。HP「事前参加登録」ページ：<https://jsvac25.jp/registration.html> よりお申込みください。

※本会は、現地開催終了後も参加登録を受け付け、Web開催（オンデマンド配信）の視聴が可能となっておりますので、ご視聴頂きたい方は上記期間中に必ずお申込みください。

※参加費は以下の通りとなります。

事前（一次）参加登録期間

会員 13,000 円、非会員 16,000 円、学生 2,000 円

当日（二次）参加登録期間

会員 15,000 円、非会員 18,000 円、学生 3,000 円

現時点での開催形式は上記を予定しておりますが、状況によっては変更の可能性も残されております。しかしながら、どのような形式となっても一人でも多くの方にご参加いただき、有意義なお時間を過ごして頂きたいと考えております。ご不便をおかけしますが、本会開催へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

主なプログラム

第1日目 12月3日(金)

ジョイントセッション

演者：大曲 貴夫（国立国際医療研究センター病院）
Susanna Esposito（University of Parma）

第2日目 12月4日(土)

AMED 共催シンポジウム：新型コロナウイルスの開発研究（統括）

演者：森下 竜一（大阪大学）
 籾田 雅之（第一三共株式会社）
 園田 憲悟（KM バイオロジクス株式会社）
 有安 まり（塩野義製薬株式会社）

学術集会若手奨励賞受賞講演

演者：河合 惇志（大阪大学）
 逸見 拓矢（国立感染症研究所）
 福田 治久（九州大学）
 八木 麻未（大阪大学）

ラスカー賞受賞記念特別講演

演者：Drew Weissman（University of Pennsylvania）

シンポジウム 1：Regulatory Science

演者：吉田 易範（厚生労働省）
 荒木 康弘（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）
 鹿野 真弓（東京理科大学）

シンポジウム 2：ワクチンの疫学

演者：福島 若葉（大阪市立大学）
 大藤 さとこ（大阪市立大学）
 原 めぐみ（佐賀大学）
 伊藤 澄信（順天堂大学）

*Short Talk

石黒 智恵子（国立国際医療研究センター）
小澤 慶（藤田医科大学）

第3日目 12月5日(日)

シンポジウム3：ワクチン研究の新展開1～新興・再興感染症ワクチン～

演者：澤田 美由紀 (MSD 株式会社)
狩野 宗英 (サノフィ株式会社)
伊藤 睦代 (国立感染症研究所)
渡辺 登喜子 (大阪大学微生物病研究所)

*Short Talk

藤本 康介 (大阪市立大学)

シンポジウム4：ワクチン研究の新展開2～新しいテクノロジー～

演者：後藤 雅宏 (九州大学)
Masaru Kanekiyo (米国国立衛生研究所)
水口 裕之 (大阪大学)
國澤 純 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所)

*Short Talk

東本 祐紀 (藤田医科大学)

シンポジウム5：ワクチン接種事業& Vaccine Hesitancy

演者：林 修一郎 (厚生労働省)
白井 千香 (枚方市保健所)
Eyal Leshem (Tel Aviv University)
黒川 哲司 (福井大学)

*Short Talk

町田 征己 (東京医科大学)

Technology Seminar：Using mass cytometry to understand human immunity to infectious disease.

演者：James Wing (Osaka University)
Mohamad-Gabriel ALAMEH (University of Pennsylvania)

高橋賞・高橋奨励賞受賞記念講演

第16回高橋賞受賞記念講演 多屋 馨子 (国立感染症研究所)
第10回高橋奨励賞受賞記念講演 森野 紗衣子 (国立感染症研究所)

総会

学術集会若手奨励最優秀賞・学術集会若手奨励賞の表彰式は、総会にて実施

*詳細はホームページをご覧ください <https://jsvac25.jp/program.html>

§ 第3回アジア肺炎球菌シンポジウムのご案内

会 長：大石 和徳（富山県衛生研究所）
会 期：2021年12月2日（木）、3日（金）
会 場：軽井沢プリンスホテル ウェスト（長野県北佐久郡軽井沢町）
テ ー マ：「細菌学・感染症学・ワクチン学の融合」（使用言語は英語）
大会HP：<https://aps2021.jp/index.html>

この度、2021年12月2～3日の予定で第3回アジア肺炎球菌シンポジウムを軽井沢で開催する運びとなりました。また、本シンポジウムは日本ワクチン学会（2021年12月3～5日、東京大学医科学研究所 石井 健会長）と同時開催予定です。

先進国のみならず途上国において、小児肺炎球菌結合型ワクチン（PCV）導入後の小児・成人の血清型別の侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）罹患率の動向が注目されています。また、この動向を受けて、次世代の新規肺炎球菌ワクチンが着々と開発されています。

本会議は日中韓に軸足を置き、肺炎球菌研究者の学術交流及び若手育成を目的とした、国際シンポジウムです。第1回は韓国、ソウル市（2017年11月）、第2回は中国、北京（2019年10月）で開催され、韓国、中国、日本、米国、欧州から約100名の研究者が参加し、肺炎球菌の遺伝学・ゲノム学、病原性、宿主応答、IPDや肺炎の疫学、ワクチン免疫や新規ワクチン開発等の研究領域について熱心な討論・情報交換が行われました。

第3回シンポジウムは指名演者による口頭発表とポスターセッションで構成され、トピックスとしては、肺炎球菌とレンサ球菌間での莢膜遺伝子の組換え、肺炎球菌の宿主病態形成の解明、肺炎球菌ワクチンの医療経済、グローバルレベルでのPCV導入後の血清型分布と罹患率の解析、肺炎球菌ワクチン連続接種の免疫原性の意義、新規ワクチン開発等の広範な内容が包括されており、国内外のトップレベルの演者が講演予定です。また、2日目の夕刻には日本ワクチン学会とのジョイントセッションとして、「呼吸器感染症における新規モダリティや新しいスキームによる予防に向けて（仮題）」を予定しております。

11月に入り、わが国のワクチン接種率は国民の74%に達し、COVID-19の第5波がピークアウトの気配をみせているものの、12月初旬の感染状況の予測は困難です。国内演者は感染対策を行った上で現地参加を基本とし、海外演者が渡航不可の場合のウェブ発表にも対応できるよう、シンポジウムの開催準備を進めて参ります。開催形式は対面とライブ配信の予定です。

皆様におかれましては、第3回アジア肺炎球菌シンポジウムの趣旨をご理解の上、是非、本国際シンポジウムに出席いただきますよう御願い申し上げます。また、多くの研究者の方々からのポスター演題の応募をお待ちしております。

§ ワクチン関連トピックス

「ワクチン開発・生産体制強化戦略」について

日本ワクチン学会

令和3年6月1日に「ワクチン開発・生産体制強化戦略」（以下、強化戦略）が閣議決定された。本ニューストピックでは強化戦略の概要について紹介する。強化戦略についての経緯、内容については健康・医療戦略推進本部のウェブページを参照されたい^{1,2)}。

強化戦略の冒頭“はじめに”として強化戦略策定の経緯と目的として「我が国は公衆衛生の向上とそれに伴う感染症への関心の低下を始めとし、様々な要因から、長らくワクチン開発・生産に必要な課題に十分に取り組んでこなかった。また、パンデミックによる非常時の対応が想定されていなかった。ワクチンを国内で開発・生産できる力を持つことは、国民の健康保持への寄与はもとより、外交や安全保障の観点からも極めて重要である。今回のパンデミックを契機に、我が国においてワクチン開発・生産を滞らせた全ての要因を明らかにし、解決に向けて国を挙げて取り組む必要がある。このため、このワクチン開発・生産体制強化戦略は、政府が一体となって必要な体制を再構築し、長期継続的に取り組む国家戦略を取りまとめたものである。」と示されている。

“2. ワクチンの迅速な開発・供給を可能にする体制の構築のために必要な政策”として9つのポイント、(1) 世界トップレベルの研究開発拠点形成、(2) 戦略性を持った研究費のファンディング機能の強化、(3) 治験環境の整備・拡充、(4) 薬事承認プロセスの迅速化と基準整備、(5) ワクチン製造拠点の整備、(6) 創薬ベンチャーの育成、(7) ワクチン開発・製造産業の育成・振興、(8) 国際協調の推進、(9) ワクチン開発の前提としてのモニタリング体制の強化が列挙され、それぞれに対して主担当及び担当省庁が明示されている。「その多くは厚生労働省がメインプレーヤーとはいえ、内閣府、外務省、文部科学省、経済産業省など各府省にまたがる対応が必要である。ワクチンの国内開発・生産は国家の安全保障にも関わる問題であり防衛省含め、緊急時の迅速な対応とともに、平時においても緊急時を念頭に置いた継続的な研究開発が行われるよう関係部門の調整及び指示系統を明確にしておくことが重要であり、研究開発の調整を超えた薬事規制や国際協調、安全保障の観点までを見据えた総合的な政策を立案する司令塔機能や関係閣僚での議論の場を構築すべきである。」とされている。

“3. 喫緊の新型コロナウイルス感染症への対応”では、複数回接種が必要、変異株への対応、日本国内で変異が発生した場合などを考慮して、国内での生産・製造能力の向上とともに国産ワクチンの研究開発を急ぐ必要があり、国内生産体制の確保や緊急時の治験実施の支援、承認要件の在り方等、表出している様々な課題への取組の必要性が述べられている。

強化戦略の“最後に”として「新興感染症はいつ発生するか予測困難であることから、発生に際して、適時適切にワクチンを研究開発、生産するためには、常に最新の技術動向を把握し、速やかに最適なモダリティを活用するための財源や体制が必要である。そのため、平時からの長期継続的な取組が重要であり、さらに、緊急時には迅速な対応がその成否を分けると考えられる。ワクチン開発・生産体制の強化を長期継続的な国家戦略として、政府が一体となって実施するためには、ワクチンのような一見すると経済合理性の乏しい分野への投資が決定的に欠如していた反省を踏まえ、緊急時の機動的かつ迅速な資金の提供や、平時における継続的安定的な資金の観点からは、機動的な資金配分方法の検討とともに、研究開発費、設備整備費、買上等の必要な取組の財源を基金等も活用しつつ、安定的に確保することが適当である。また、ワクチンは健康な者の発症を未然に予防できる反面、副反応のリスクは避けては通れない。そのようなワクチンが内在する特徴を踏まえ、

リスクがあることを前提にベネフィットと比較し、ワクチンへの理解促進のため、国民への丁寧な説明やワクチンに対する平時からの教育、マスメディアとの連携を通じた適切な情報発信等も重要である。」と締めくくられている。

日本ワクチン学会としても強化戦略の目的、方針について賛同するものであり、会員各位には、強化戦略への理解を深めていただくとともに、現在のパンデミックの終焉と次なるパンデミックへの備えなどの対応に協力いただくことを期待したい。

1) <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/iyakuhin/dai5/gijisidai.html>、2021年8月31日閲覧

2) <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/tyousakai/dai28/siryoul-2.pdf>、2021年8月31日
閲覧

日本ワクチン学会 賛助会員

<二口賛助会員>

KM バイオロジクス株式会社

サノフィ 株式会社

第一三共 株式会社

一般財団法人 阪大微生物病研究会

<一口賛助会員>

MSD 株式会社

一般財団法人 化学及血清療法研究所

北里薬品産業株式会社

グラクソ・スミスクライン株式会社

三機工業株式会社

医療法人 相生会

武田薬品工業株式会社

田辺三菱製薬株式会社

デンカ株式会社

ニプロ株式会社

日本ビーシージー製造株式会社

Meiji Seika ファルマ株式会社

五十音順 2021年11月現在

日本ワクチン学会ニュースレター 第39号

2021（令和三）年11月15日発行

発行人 日本ワクチン学会

理事長 岡田 賢司

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号

新宿ラムダックスビル（株）春恒社 学会事業部内

日本ワクチン学会事務局

TEL：03-5291-6231 / FAX：03-5291-2176 / E-mail：jsvac@shunkosha.com
